

362 外遊会講演会

〔『法学新報』第24巻4(274)号 大正3年4月1日〕

○外遊会講演会 法律、政治、経済の学を修め外国に留学又は漫遊したることある人士に依りて組織せられたる同会は去月八日第二回の会合を機として午後三時より中央大学大講堂に於て講演会を開催す「ドクトル、ユリス」水口吉蔵士は我商法に於ける被保険者の地位と題して「保険に関する我商法の規定中に

強行規定頗る少なく従ひて被保険者の保護十分ならず」と論し
法学博士政尾藤吉氏は暹羅国法典編纂に就てと題し「暹羅国法
典編纂の由来」を述へ法学博士大場茂馬氏は法律の社会に及ぼ
す影響と題して「法律の社会に及ぼす影響は立法者の達せんと
する直接の影響よりも寧ろ立法者の思付かさりし点に於て影響
するところ甚だ多し故に立法者は却て此点に注意せざるへから
す」と縷縷論述せられたり此外青木徹二、原夫次郎、武田鬼十
郎、堀江専一郎の諸氏講演の筈なりしも時間の都合上次回に譲
りて七時閉会し次回は来る五月中に開催することとし前記講演
者の外三四名出演する筈なり（マコ）云ふ